

2020年6月5日

2019年度学校関係者評価報告書

2019年度学校関係者評価につきまして、以下の通り報告いたします。

1. 学校関係者評価委員会委員名簿（外部委員）

氏名	所属先
猪瀬 和志	株式会社猪瀬 常務取締役
手塚 彰一	栃木県立茂木高等学校 元校長
菊地 範昭	医療法人全人会 宇都宮中央病院
田中 優希	塩谷広域行政組合消防本部
半田 三男	社会福祉法人正恵会 特別養護老人ホーム ホームタウンほそや 施設長

2. 学校関係者評価委員会開催状況

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、書面での意見聴取により実施。

3. 学校関係者評価委員会評価結果

別紙の通り。

2019 年度学校関係者評価報告

(ア) 教育理念・目的・人材育成像

- ・学校の理念・目的・将来構想などの周知が③という点は、特に留学生が十分理解していないということなのか、やや気になった。
- ・臨床工学科・救急救命科ともに国家試験の合格率の高さは全国的に見ても素晴らしいと思う。今後もこの水準を維持していけることが重要だと思う。公務員学科も長引く日本経済の低迷からくる公務員の倍率の高さから鑑みると就職率60%は素晴らしいと思える。介護福祉科は、いくつか問題もある中、国家試験から就職とクリアしていかなければならない。先は見えないことが多く困難が予想されるが、成功させてほしい。
- ・介護人材の育成に貢献してほしい。

(イ) 学校運営

- ・情報公開が進んだことが伺え、また、ホームページもわかりやすくなっていると思う。
- ・現状、特に問題ないと思う。今後も時代のニーズに即した柔軟な体制を期待する。

(ウ) 教育活動

- ・平成30年度と評価が変わっていない。特に授業評価の実施が①というのは、学校の様々な事情を考慮しても問題があるのではないか。
- ・各資格試験の合格率・就職率を踏まえ、現状問題はないと思われる。また、各業界のスペシャリストや、第一線で活躍されている現役の人を講師とすることで、資格取得だけでなく、その先の就職後の即戦力としての人材育成になっている。

(エ) 学修成果

- ・就職率については、社会情勢によって左右されることもあり、公務員試験もかなりハードルが高いのでやむを得ないと考えられる。資格取得率を見ると、先生方も学生も良く頑張っていると思う
- ・退学率に関しては、過去に比べればかなり改善してきたように思われる。とはいえ、5%以下を目指し、安易に退学を選択する学生が減るよう対策を考えていただきたい。
- ・介護福祉科は初の卒業生となる。今後のためにも、就職率は目標のとおり100%を目指してほしい。

(オ) 学生支援

- ・退学率を減らすためにも、学生の支援・相談体制を充実させていく必要があると思う。
- ・現状、特に問題は無いと思う。
- ・介護福祉科は外国人が多いため大変だと思うが、相談等の支援をお願いしたい。

(カ) 教育環境

- ・現代教育の現場では、Wi-Fi等のインターネット環境は必須ともいえる。また、学生からのネット環境の整備のニーズはとても高かった。今後も、授業に積極的にネットやパソコンを利用して近代化を図ってもらいたい。
- ・特に問題はないと思う。

(キ) 学生の受入れ募集

- ・学校の取り組み、広報担当者の努力で本学のことが浸透してきているように思う。
- ・現状、特に問題はないと思う。

(ク) 財務

- ・現状、特に問題はないと思う。

(ケ) 法令等の遵守

- ・法令等の遵守、情報公開の評価がかなり上昇したことは、学校の信頼に大きく貢献することにつながると思う。
- ・現状、特に問題はないと思う。
- ・法令を遵守し、適正に運営してほしい。

(コ) 社会貢献・地域貢献

- ・留学生も多いので、地元の小・中学校との交流を企画してもよいのではないか。
- ・現状、特に問題はないと思う。
- ・今後も、地域との交流等社会貢献に力を入れてほしい。

(サ) 国際交流

- ・今後、日本の労働力の減少化に伴い、ビジネスモデルも大きく転換期を迎えている。当然、国外からの労働力に頼らざるを得ないのが現状。そんな折、当学校が次世代のモデルとなることを期待している。
- ・介護福祉科は特に日本語教育を充実させてほしい。